

米国 例年よりも高い気温を受けヘッドラインが下ぶれ(15年10月鉱工業生産)

2015年11月18日(水)

～製造業は緩やかな拡大モメンタム～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	設備稼働率	製造業 (NAICS)	生産能力
	前月比	前年同月比									
15/01	▲0.3	(+4.5)	▲0.3	▲1.6	+1.5	▲0.3	▲0.3	▲0.5	+78.7	+76.9	+0.1
15/02	▲0.2	(+3.5)	▲0.4	▲1.7	+3.5	▲0.3	▲0.5	▲1.9	+78.4	+76.5	+0.1
15/03	▲0.2	(+2.5)	+0.2	▲0.4	▲2.5	▲0.5	+0.2	+3.3	+78.2	+76.6	+0.1
15/04	▲0.2	(+2.1)	+0.4	▲1.3	▲2.6	+0.1	+0.4	+1.7	+78.0	+76.8	+0.1
15/05	▲0.4	(+1.4)	▲0.0	▲2.3	▲0.5	▲0.1	+0.0	+2.4	+77.6	+76.7	+0.1
15/06	+0.0	(+0.9)	▲0.1	+0.0	+0.9	+0.2	▲0.1	▲4.5	+77.5	+76.5	+0.1
15/07	+0.8	(+1.3)	+1.0	+1.1	▲1.4	+0.0	+1.1	+10.6	+78.0	+77.2	+0.1
15/08	+0.1	(+1.4)	▲0.2	+0.3	+1.6	▲0.1	▲0.2	▲5.2	+78.0	+77.0	+0.1
15/09	▲0.2	(+0.7)	▲0.1	▲2.4	+1.2	+0.4	▲0.2	+0.5	+77.7	+76.8	+0.1
15/10	▲0.2	(+0.3)	+0.4	▲1.5	▲2.5	+0.7	+0.4	+0.7	+77.5	+77.0	+0.1

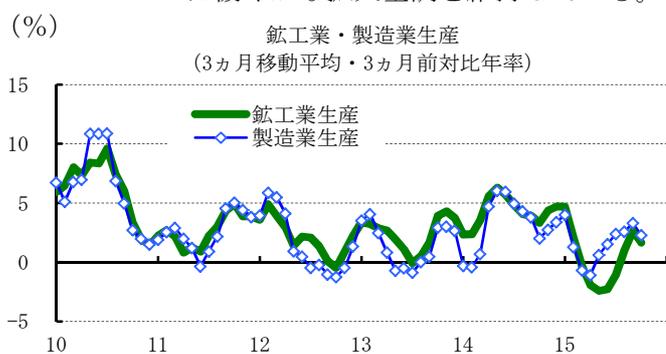
10月の鉱工業生産は前月比▲0.2%と2ヶ月連続の減少

15年10月の鉱工業生産は、前月比▲0.2%と市場予想の同+0.1%に反して、2ヶ月連続の減少となった。製造業生産はドル高、新興国経済減速、在庫調整の影響を受けながらも自動車、ハイテクの拡大により同+0.4%と増加に転じた。一方で、公益が例年よりも温暖な天候を受け前月比▲2.5%と減少に転じたほか、鉱業が原油価格下落による石油掘削などの落ち込みを背景に前月比▲1.5%と2ヶ月連続のマイナスとなり、全体を押し下げた。

業種別では、加工金属が減少に転じたほか、食品・飲料・タバコ、アパレルが減少幅を拡大した。一方、木材、非鉄、一次金属、その他製造業、石油・石炭が増加に転じた。また、自動車・同部品、一般機械、コンピューター・電子機器、繊維、化学は加速した。需要の堅調な自動車を除く製造業生産が前月比+0.4%と増加しており、広がりを持って拡大した。稼働率では、鉱工業全体が77.5%と市場予想に一致したものの低下した。一方、製造業は77.0%に上昇した。

3か月前対比で勢い維持

3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、10月の鉱工業生産が+1.7%（前月+2.6%）、製造業生産が+2.3%（前月+3.3%）と小幅鈍化したが、緩やかな拡大モメンタムを維持している。四半期では、鉱工業生産（10月）は鉱業の落ち込みにより7-9月期比年率▲1.1%（7-9月期前期比年率+2.6%）とマイナスに転じた。一方、製造業生産（10月）は、7-9月期比年率+1.1%と7-9月期に前期比年率+3.3%上昇した反動もあり鈍化したが、自動車の増加等を背景に緩やかな拡大基調を維持している。



(出所) FRB



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。